

高浜市の未来を創る市民会議(第3回)

点検・確認結果を発表しよう!【報告】

日時 平成24年9月24日(月)

午後7:00~8:50

場所 市役所4階 第2会議室

1 全体会

(1) お知らせしたいことがあります(情報共有コーナー)

<福島伸一郎さん(防犯・防災分科会)>

- ・「東日本大震災被災地訪問」について報告。
- ・7月末に被災地を訪問した。行ってきた子どもたちの感想は別紙のとおり。
- ・今まで、スーパーなどで「あれ買って」、「これ買って」と言っていた子どもが言わなくなったという声もあった。被災地の子どもたちが、何もかもなくして頑張っている様子を、自分の目で見てきたからだと思う。子どもたちは被災地を見て驚いたが、保護者は子どもの変化に驚いたようだった。
- ・百聞は一見に如かず。子どもたちの防災教育のために、被災地を訪問し、肌で感じて防災に関心を持ってもらいたいと思う。これが、自分の命は自分で守ること、ひいては、他人の命を守るお手伝いができることにつながると思う。

<井原祥子さん(地域福祉分科会)>

- ・「ざっくばらんなカフェ」、「回想法体験会、実践研修会」の案内。
- ・10月10日(水)第13回ざっくばらんなカフェを開催する。古い写真や道具を見て、懐かしい話をしながら、交流を図り、いろいろな気づきを得たい。場所は、いきいき広場2階ホール。
- ・10月12日(金)、26日(金)、11月9日(金)、回想法体験会と実践研修会を開催する。思い出話をするすることで、人と話したり、コミュニケーションを取ることで、認知症予防や世代間交流をしていく。ボランティアや地域の活動にも活かせると思う。

<鈴木源太郎さん(自治推進分科会)>

- ・「高浜市パブリックコメント条例(案)」に対する意見募集。
- ・パブリックコメントとは、大切な決まりごとをつくる際、行政だけが決めるのではなく、市民の皆さんに公表して、いろいろな意見をいただくという手続のこと。
- ・そのパブリックコメントについて条例を定める予定となっており、今回、その内容について、意見を募集する。
- ・提出方法は、市役所及び市内の各施設に設置している意見募集箱に投函いただきたい。

<神谷環光さん（産業・観光分科会）>

- ・「タカハマ物語」再上映の案内。
- ・9月2日（日）の上映会では 2,100 人の方にご覧いただき、見れなかった方も多かったと聞いている。
- ・10月6日（土）～28日（日）かわら美術館のシアターで、11月25日（日）13時～及び16時～市民センターで再上映を予定している。また、9月27日（木）21時～21時30分「ZIP FM」、9月28日（金）8時～9時30分NHKの「あさイチ」で堤監督が出演予定。10月19日（金）10時～CBCで「タカハマ物語」について放映予定。ぜひご覧いただきたい。

<高橋貴博さん（産業・観光分科会）>

- ・「コミュニティビジネス」のアイデアプラン募集。
- ・現在、高浜市では、地域の課題を、ビジネス手法を用いて、地域で解決させる「コミュニティビジネス」の創出に取り組んでいる。そのコミュニティビジネスにつながるような、ヒントやアイデアを募集する。すでに具体化しているプランも大歓迎。

<田中秀彦さん（防犯・防災分科会）、知立建設事務所>

- ・「国道419号線高浜立体の桁色」アンケート。
- ・現在工事中の国道419号線の橋の色についてアンケートを実施する。別紙にあり、水色、灰色、クリーム色、緑色、黄土色の5色から1色を選んでいただき、本日、お帰りの際にアンケート回収箱に提出していただきたい。

⇒ 《結果》

①水色	34票
②灰色	1票
③クリーム色	15票
④緑色	20票
⑤黄土色	47票



(2) 点検・確認結果を発表しよう！

①進め方を説明します

- ◆1目標あたりの「提言」の発表は4分以内。
- ◆各分科会から発表者が前に出て、自分の分科会の模造紙の前で発表。
- ◆それぞれの「提言」に対し所属メンバー以外からの声も聞くために、出席者全員に所属以外の分科会の名前が記入されたポストイットを3枚ずつ配布。発表を聞きながら、その分科会に対しての感想やエールを記入。

②発表順を決めよう！

- ◆くじ引きにより、発表順を決定。

③点検・確認結果を発表しよう！

- ◆各分科会より、1目標あたり4分以内で「提言」を発表。

分科会	目標
自治推進分科会	目標(1) 市民とともに歩む経営を行います
	目標(3) 市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います
財政分科会	目標(2) 次世代のために、健全な財政運営を行います
生涯学習分科会	目標(4) 学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます
	目標(6) 人のつながりやぬくもりの中で、子育て・子育てを支えます
学校教育分科会	目標(5) 心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります
産業・観光分科会	目標(7) まちの成長を支えるエンジンとして、産業を元気にします
	目標(8) 地域に根ざした新たなビジネスの芽を育みます
環境・憩い分科会	目標(9) みんなでまちをきれいにします
	目標(11) 自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます
防犯・防災分科会	目標(10) ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります
	目標(12) 安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます
地域福祉分科会	目標(13) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます
健康分科会	目標(14) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します

<自治推進分科会>

目標（1）市民とともに歩む経営を行います

- キャッチフレーズの認知度が、2011年には22.4%だったが、2013には30%にすることが目標。そこで、まちづくりのキャッチフレーズ「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を広げて、みんなに認識してもらおう！ということ
で、みんなでアイデアを出し合い、9つのアイデアが出された。
- のぼり旗を作って、地域や行政のイベントで活用しよう！これは、行政で作ってもらわなければいけない。早く作ってくれるよう、お願いしたい。
- 市から発信するメールに、ロゴを入れよう！メールの下に、キャッチフレーズを入れる。お金も時間もかからないため、明日から実行する。職員は協力をお願いしたい。
- キャッチフレーズを回覧板に表示しよう！忙しくて広報は読めないけど、回覧板ならとりあえず目を通すという方は多いのではないのでしょうか。
- 市役所の全ての封筒にキャッチフレーズを表示しよう！いろいろなグループから、いろいろなご案内を差し上げる。行政の各グループの協力をお願いしたい。
- 公共施設などに大家族たかはまの看板を設置しよう！公共施設に設置すれば、みんなに見ていただくことができ、市内にもっと広がるのではないかと。
- 広報・ホームページの表示を目立つようにしよう！実は、広報の表紙の上の方に、キャッチフレーズが表示されているが、「分からない」、「気付かない」という声があったため、もっと目立つようにしたい。
- 統一したロゴ・ステッカーを作ろう！作ったロゴをステッカーにして、地域でも行政でも、たくさんPRして、市全体に広めたい。
- あらゆるチャンスに「大家族たかはま」を広げていきたい。まずは、やってみること！

目標（3）市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います

- 提言内容は、「高浜市自治基本条例 子ども向け副読本」を活用した出前授業に出かけよう！
- 次の世代を担う子どもたちに、子どもの頃から、地域に関心を持ってもらい、また、子どもを通じて保護者など大人にも関心を持ってもらうことで、地域活動に参加するきっかけにしてほしいということで、昨年、自治基本条例の子ども向け副読本を作成した。この想いを実現するために、今年、小学校6年生を対象に、副読本を活用した出前授業に出かけたい。
- まず、授業の前に、副読本を親子で読んでもらい、地域について考えたり、地域活動に関心を持ってもらうため、副読本のワークシート欄への記入を宿題にしたい。授業時間は45分と短いため、この宿題を基に、学区ごとの身近なテーマにポイントを絞っていききたい。
- 授業の進め方としては、①子どもたちに参加したり、見たことのある活動があるか質問。②子どもたちから出てきた活動について、どんな想いで、どんな活動が行われているか、写真などを示して説明。③こうした活動を継続していくことが「まちづくり」であり、「高浜市自治基本条例」にも、“子どもから大人まで、みんなで協力してまちづくりをしていきま



しょう”といったことが書いてあることを説明し、まちづくりに取り組むことを促す。

- まちづくりの3原則である、みんなで参加しようという「参画」、みんなで一緒にや
りましょうという「協働」、お互いに知り合いましょうという「情報共有」の3つを
子どもたちに教えていきたい。

<財政分科会>

目標（2）次世代のために、健全な財政運営を行います

- 計4回開催の分科会の内、2回は2グループに分け、「分かりやすい財政運営」という共通テーマと、「定住自立圏構想推進事業」、「行政運営の効率化事業」といった個々のテーマを、それぞれで議論した。
- 提言の1つ目は、市民の皆さんに財政状況について、もっと関心を持ってもらおう！ということで、4つのアイデアを出した。市民意識調査結果を分析しながら、関心度の低かった若年層をターゲットに、そこから親の世代に広げていきたいという発想から、ゲーム感覚で市の財政を知ってもらえる取組みをしてはどうか、そもそも市の財政に興味・関心のない方に、興味・関心を持ってもらうため、インパクトのある情報発信をしてはどうか、いつでもどこでも財政に関する情報が得られるように、財政について学べる場所の設置や、標高サインのように、まち全体に財政の見える化をしてはどうか、といったアイデアが出された。
- 2つ目は、行政運営を効率的にしていこう！ということで、2つのアイデアを出した。効率化できた事例を発表して「見える化」してほしい、時間外勤務の削減という目標管理から、コスト削減という意識に変えた方が良いというアイデアが出された。
- 行政にこの声が届き、より多くの方が高浜市の財政に関心を持つことができた、行政サービスがより効率的に運営することができるようになった、という姿が実現されることを願っている。



<生涯学習分科会>

目標（4）学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます

- 自分が学んだことを自分の中だけに留めておくのではなく、学びの輪として、誰かに教えたり、社会の中で活かしたりすることができる結びつきをつくることによって、目標を達成できるのではないか。それによって、「高浜市に愛着を持っている人」や「将来に夢を持っている人」が、どんどん増えていくのではないかということ、分科会では話し合った。
- 目標を達成するためには、3つのステップがある。ステップ1は、「現状の見える化」。例えば、一目で内容が分かるように、達人の一覧表を作成してはどうか。
- ステップ2は、「情報発信」。例えば、市の広報やたんぽぽニュース、YouTube などを通じて、情報を発信してはどうか。
- 最後のステップ3は、「結び付け」。教えてもらいたい人、教えたい人を結び付ける。
- 3つのステップを確実に一步一步こなし、達成していきたい。

目標（6）人のつながりやぬくもりの中で、子育て・子育てを支えます

- 目標達成の指標となっている「子どもとふれあう行事に参加したことのある人」の割合を高めるためには、大人の子どもへの意識を高めることが大切。
- 高浜市には、「たかはま子ども市民憲章」がある。これをさらに浸透させて、大人の意識を子どもに向けさせることで、大人と子どもが互いにもっと意識を高めあうことができるのではないか。
- 具体的な仕掛けとして3つ提案する。高浜市には、「大人もね…」、「わたしはね…」という絵本があるが、手にとって開いて見るという人は少ない。そこで、人の目に付くところに貼り出せば、手にとって見たり、読んだりするのではないだろうか。絵本の中にも、「たかはま子ども市民憲章」が書かれている。一度ご覧いただきたい。
- 2つ目は、イベントを活用してPRしよう！大人に対してPRすることで、自分の子どものことだけ考えていた大人が、地域の子どもにも目が広がっていくことを期待する。そうした意識が広がると、大人も子どもも仲が良いまちになるのではないか。
- 3つ目は、笑顔の写真展をより充実させよう！広報で子どもの笑顔の写真を見るが、子どもが大人を撮った写真や、近所同士の写真があったらすばらしいのではないか。新たな部門を設定すれば、コミュニケーションも広がる。また、展示場所ももっと増やして、みんなの関心が広がれば、写真展の意図が広がり、応募も増えると思う。



<学校教育分科会>

目標（5）心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります

- 子どもの教育には、学校・家庭・地域がともに手を携えていくことが不可欠。学校も、“地域の”学校として、子どもを“地域の宝”として、見守ってほしい。そこで、「毎日が楽しいと感じる子ども」、「勉強に積極的に取り組む子ども」、「地域行事やボランティア活動に参加・参画する子ども」を増やしていくために、学校の授業や行事に、地域の人たちとの関わりを取り入れていくためにはどうしたら良いのか、意見やアイデアを出し合った。
- まず、「現状把握」として、地域の方が関わっている学校行事・授業、地域で行われている園児・小中学生向け事業、地域の人材として「こんな人がある」という情報を出し合った。各小学校で読み聞かせボランティアやおやじの会が活動をしていたり、地元の人々の指導による米づくりや菊づくりなどの体験が挙げたが、学区が変わった途端に、知らないことがたくさんあった。
- 次に、「目標・夢・理想」として、「こんな風になったらいいな」という想いを出し合った。学校が地域の核として、また、市民の学び舎として、子どもからお年寄りまで、あらゆる世代がつながり合う場として、市民が気軽に学校の行事に参加できたり、学校のバックアップに関わることが出来たら良いと思う。また、今行われている行事・事業は、大人目線で立てた企画が多い。子どもたちの興味や好奇心が沸くように、子どもたちから「こんな話が聞いてみたい」、「こんなことがやってみたい」というリクエストを聞くといったことも大切ではないか。
- 次に、「目標・夢・理想」の実現に向けて、立ち足はかかる「課題・壁」を出し合った。

学校の授業時間や放課後、土日など、子どもたちの限られた時間の中で、子どもと地域の人たちとの関わりを、いかに効率的・効果的に確保できるかが課題。また、地域によっては、PTAなど役員が終わったらもうおしまい、という人が多いと聞く。役員が終わっても、継続して活動に関わっていく人が増えると良い。

- 最後に、「解決方法」として、時間をつくるためには、土曜授業の復活が挙げられるが、なかなか難しい。学校が、地域の人たちからどういう力を借りたいのか、学校の想いを発信するとともに、地域の人々が協力しようと思えるよう、行事などの情報を、保護者など、地域に見えるようにしていく必要があるのではないか。口コミ、紙媒体、ブログなど、いろいろな方法があるが、繰り返し、継続して発信していくことが大切。
- また、地域でも子どもたちのためを思って、たくさんの事業が熱心に行われているが、いろいろな企画をたくさん持ち込まれて、学校側がパンクしないように、学校側と地域側の想いを交通整理、マッチングさせるような仕組みがあったら良い。
- 以上を基に、分科会からは2つの提言をする。1つ目は、情報の「見える化」。2つ目は、それぞれの想いの「マッチング」。
- 下半期には、学校現場を見て、行事の見学や体験をしたい。



<産業・観光分科会>

目標（7）まちの成長を支えるエンジンとして、産業を元気にします

- 地場産業である瓦の販路拡大についてのアイデアを話し合った。今後も販路拡大を目指し、関係団体と連携して支援するが、行政の金銭的支援には限りがあり、切り口を変えた方策は無いかという課題がある。そこで、鬼瓦制作の実演やブランド性の確立で伝統をアピールしていこう！というアイデアを出した。
- 例えば、東京の銀座で鬼師によるショーやイベントを行い、多くの人に見ていただき、匠の技で、知名度などをアピールしていければいいよね、という意見も出た。
- 農業従事者の減少を食い止めるため、法人化等を視野に入れ、昨年度、吉浜で任意で営農組織を立ち上げ、高取でも話し合いが進んでいる。この動きをもっと活性化させるために、高浜市の土壌に合った、高浜市ならではの特産品・農作物を誕生させるだけでなく、加工して名物を生み出そう！というアイデアを出した。
- 分科会では、特産野菜の候補の1つである「青ナス」の試食会を行った。非常に甘くておいしい。丸焼きしてしょうゆダレでも、バーベキューのように焼肉のタレでもおいしい。高取の産直でも、2個で120~130円で販売している。一度試していただきたい。みんなで広めていくことも、高浜市の名物に育てる一助になると思う。

目標（8）地域に根ざした新たなビジネスの芽を育みます

- コミュニティビジネスについて、今後はセミナー参加者が事業実践に踏み切るか否かの中で、立ち上げに最も必要な支援策を打ち出す必要がある。そこで、セミナー参加者のコミュニティビジネスの起業に対し、運営資金等の支援策を講じよう！
- 地域の困り事やニーズを事業としたコミュニティビジネスが立ち上がることにより、それらの問題点を、ビジネスとして解決していければ、より地域が活性化し、住みやすくなっていくのではないかと。

- 鬼みちまつりやイベントなどの来場者数の数値は、目標値にすでに到達した。今後は、この勢いを順調に保つために、高浜市の新たな魅力を市民とともに発見したい。そこで、「瓦」、「鬼瓦」、「とりめし」など既存のまちの魅力を組み合わせて、PRしよう！
- 例えば、高浜市に訪れた方に、鬼師による実演を見て、とりめしを食べていただき、その相方とし、高浜市で取れた野菜を使った名物の野菜料理を食べていただくなど、既存の魅力を組み合わせて、複合的に取り組んではどうか。
- 「瓦」、「鬼瓦」、「鬼師」、「とりめし」は、今後、高浜市の観光・産業を考えていく上でキーワードになっていくと思う。



<環境・憩い分科会>

目標（9）みんなでまちをきれいにします

- ごみそのものを減らすため、すでに実施している「ごみの分別」をさらに徹底することで、より一層のごみの資源化を図り、ごみの減量につなげたい。ごみの問題は全ての人に関わる問題として、自助・共助・公助に整理した形で取組みを提言する。
- まず「自助」について。ごみの問題はマナーの問題として、マナーの向上作戦の実施を提言する。本分科会では、マナー向上のために、子どもたちの力を借りることが有効と考え、2つの取組みを提言する。
- 1つ目は、学校で分別収集を実施しよう！総合計画には、「地域・学校・事業者・関係各位と連携した環境美化活動・環境保全活動を積極的に進めます！」とある。そこで、小中学校に協力を依頼し、子どもたちが、学校生活の中で、分別収集を行い、そこで得た知識を大人たちに広めてもらうと良いのではないか。
- 2つ目は、子どもたちが大人を教育できるような環境学習を実施しよう！子どもたちはエコハウスで分別収集を学んでいるが、得た知識を実践する場がない。そこで、学習を終えた子どもたちが分別収集拠点で、指導・活躍できるような取組みを実施してはどうか。
- 子どもたちに、環境美化推進員になってもらうことも、有効な手段であると考え。マナーの悪い人に大人が注意すると角が立つが、子どもが言えば、おおらかにマナー向上につながるのではないか。
- 次に「共助」について。地域みんなでごみ減量、分別収集の実施を提言する。そのためには、みんなで分別方法を学ぶことが必要であり、3つの方法を提言する。
- 1つ目に、分別Q&Aをつくろう！昨年作成した「ごみ分別便利帳」の内容をさらに詳しくするため、便利帳を毎年発行すると、経費もかかり、古い便利帳そのものがごみになってしまう。そこで、市のホームページなどを活用して、Q&A方式で分かりやすくお伝えすることで、分別に対する意識も高まり、ごみ減量につながると考える。
- 2つ目に、町内会の皆さんをエコハウスに呼ぼう！分別収集の中心的な役割を果たしている、町内会の班長さんに、分別方法を学んでいただくことが有効な手段であると考え、定期的に町内会の皆さんを、エコハウスに招待してはどうか。
- 3つ目に、市民一斉清掃に参加しよう！市民一斉清掃は、年2回実施され、多くの方が参加している。市民一斉清掃に参加することで、地域の皆さんと顔なじみになったり、それぞれの地域の環境状況を知ってもらう貴重な機会になる。多くの人に参加し

てもらうようなPRの強化をしていってはどうか。

- 最後に「公助」について。ルール違反はみんなで監視、不法投棄撲滅作戦を提言する。
- 1つ目に、不法投棄情報を公開してみんなに実態を知ってもらおう！不法投棄現場が、高浜市には多く存在する。個人情報に配慮しつつ、これらの情報を公開することで、市民の皆さんに関心を持っていただき、不法投棄をみんなで監視してはどうか。
- 2つ目に、不法投棄現場を重点監視地域に指定しよう！ごみステーションは、市内に700箇所ほどある。また、不法投棄される時間帯が深夜から早朝であることから、全てを監視することは難しい状況だが、ひどい地域を絞り込むことはできる。そこで、地域の人にご協力いただきながら、現場を重点監視地域に指定し、行政と連携をした対策が取れるようにしてはどうか。地域の人と行政が連携し、ルール違反者に対し、1つずつ粘り強く対策をすることが、不法投棄の撲滅に有効だと考える。
- 3つ目に、不法投棄を無くす実験をしよう！不法投棄に対する警告を行う看板を設置するにあたり、あるところでは日本語の看板を設置していても、一向に不法投棄がなくならなかったが、ポルトガル語の看板を設置したらなくなったという事例もある。どのような文言が有効か、また、重点監視地域の指定をセットにして、いろいろな方法を地域の人と連携して実験をし、効果測定をしていくと良いのではないか。
- 不法投棄というのは、勝手にごみが来るわけではなく、必ずモラルのない人間が持ってくる。高浜市の住民全体のマナーの向上が大切。
- 人間は真剣だと、「知恵」が出る、いい加減だと「言い訳」が出る、きついと思ったら「愚痴」が出る。人の意識を変えることは非常に困難だが、子どもたちの力も借りながら、「言い訳」もせず、「愚痴」も言わず、提言させていただいた問題に真剣に取り組み、「知恵」を出していきたい。



目標（11）自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます

- 高浜市には海もあり、川や田畑の織り成す風景もある。そんな身近な憩いの場を大切にしていくために、3つの取組みを提言する。
- 1つ目に、「自分たちが憩える場所を」を守り育てるという意識を広めよう！
- 2つ目に、みんなが「憩い」「集う」場所は、いつも清潔で、緑や花があるように、地域の美化活動の力を発揮しよう！
- 3つ目に、個性的な景観づくりを模索するなど、自分たちの手で、地域の特性やニーズに合わせた憩いの空間をつくり、育もう！
- こうした活動を通して、みんなが集い・憩う風景をつくりあげて、まちの自慢としていきたい。

<防犯・防災分科会>

目標（10）ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります

- 地域で行っている青パトでの昼間のパトロールで市内を巡回するときに、道路標識や表示、ラインを見て、不備のあるところを早急に行政へ報告するなど、連携を強化したい。
- 高浜市のシンボルなどを、行政だけでなく、地域の人と一体となって決めてはどうか

という声があり、そんな中で、国道 419 号の高架の色決めがあったため、初めての取組みとして、皆さんにご意見を伺うこととなった。

目標 (12) 安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます

- 生活の原点は、安全・安心。治安が良くなければ、いろいろな取組みはできない。
- そこで、まず1つ目は、防犯意識が向上し、体で安全を感じる「体感治安」を感じられるために、地域・家庭であいさつをしよう!ということで、どこでもできることだが、特徴ある「あいさつ通り」を設ければ、防犯の第一歩であるコミュニケーションづくりができるのではないか。お金もかからない。みんなが仲良くなれば、犯罪は起きにくい。
- また、こども 110 番の旗が立っている家もある。こういった人の意識を高める、リーダー育成をしながら、意識改革を行っていききたい。
- 防災・減災で重要なことは、みんなが災害想定を共有し、少なくとも3日間生き残るという実現可能な目標レベルを、事前準備すること。事前準備は、地震・津波発生時において、少なからず減災効果が必ず現れる。
- 今後、標高サインの設置場所の再アピール、増設も計画していききたい。また、防災講演会、防災訓練、東北など被災地とのふれあいへ、大勢の参加を呼びかけていきたい。



<地域福祉分科会>

目標 (13) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます

- 提言の1つ目は、「New ボランティア人」を地域に広めよう!ということで、昨年、分科会で「New ボランティア人を発掘しよう」という提言をした。「New ボランティア人」とは、例えば、近所のお年寄りの方を常に気にかけているなど、本人はボランティアという意識はなくても、実は地域の支え合い活動に貢献している人のこと。
- しかし、昨年、提言をしてからなかなか広がっておらず、この認知度を高めるために、「かりや衣浦つながるねット」でのPR、リーフレットを作成し、イベント等で配布、といったことを考えている。
- また、地域の支え合い活動を広げるための働きかけを行うため、例えば、「いきいき健康マイレージ」は現在 65 歳以上の方限定になっているが、「New ボランティア人」に特化した、年齢を問わないマイレージ制度を創設してはどうか。
- 2つ目として、今までボランティア活動を行ってきた方に対し、ボランティア広場センターの役割・位置づけがあまり周知されていなかったため、登録につながってなかった。そこで、ボランティア活動者の活動の拠点となるまちづくり協議会や福祉系の事務所の方でも、簡単に登録できる仕組みに見直そう!また、ボランティアをする方が、いきいきとできるような活動の場を作ろう!
- 3つ目として、ロンドンパラリンピックでも注目された障がい者スポーツ「ボッチャ」は、障がい者だけでなく、高齢者や子どもなど、いろいろな人が楽しめるスポーツ。分科会でも体験し、白熱して楽しんだ。いろいろな人がつながりあって、理解し合える、とてもすばらしいスポーツ。そこで、11 月開催のわくわくフェスティバルにお

いて、ボッチャの大会を開催したい。ぜひ、皆さんにも参加していただきたい。

- 分科会のテーマである「New ボランティア人」、「さらに元気」、「理解とつながり」をいかに進めていくかが課題。この3つを強くしていくのが、他の分科会や関係団体、関係機関とつながり合うということ。自治基本条例の第4条に「協働の原則」があり、「市民・行政はそれぞれの立場や果たすべき役割を自覚し、お互いに尊重・理解し、知恵と力を出し合いながら、連携・協力してまちづくりを行う」とある。
- そこで、2つのことをお願いしたい。1つ目は、「協働の原則」を具現化するために、庁内の横断的な連携を図っていただき、市民が活動しやすい体制をつくってほしい。2つ目は、市民会議が総合計画の実行部隊であるということを知っていただきたい。
- 昨年、地域福祉分科会では、「New ボランティア人」を広げていくことが、災害時にも強い地域をつくるのではないかと考え、取り組んできた。それをさらにつなげていくことが大切であるとする。地域や人は、時々刻々と変化している。つなげたり、継続することが大切。イベントもやって終わりではなく、次につなげていくことが大事。
- 推進会議でも「行政の縦割り」について何度も言われていると思うが、地域で暮らす人々一人ひとりが幸せになるためには、市の地域福祉グループだけではなく、いろいろなグループから全体が関わるもの。行政の縦割りを出来るだけ少なくして、地域の活動が活躍できるよう、応援していただきたい。



<健康分科会>

目標 (14) 一人ひとりのげんきと健康づくりを応援します

- 「健康たかはま21」、「いきいき健康マイレージ」、「かかりつけ医」について検討してきた。
- 定住自立圏で検討してきた「地域医療ネットワーク」がスタートしている。このネットワークのおかげで、主治医が直接、刈谷総合病院へ予約をしてくれ、その結果については、主治医から聞くことが出来るようになった。こういった情報は、発信のチャンスを見逃さず使おう。市民の口コミも有効。
- 「いきいき健康マイレージ」実践者の声、効果があったことなどを広く伝えることも大切。それぞれの人に合ったボランティアや活動の紹介、相談もしてくれる。何事もきっかけが大切。きっかけを見つけて仲間に勧めよう。仲間づくりも、活動を継続するための力になる。
- 以上のことから、①地域医療ネットワークを知ろう！②かかりつけ医を持とう！③「いきいき健康マイレージ」の口コミ作戦開始！④マイレージの実践者の声を広めよう！⑤地域の事業に積極的に参加しよう！の5つを提言する。



④発表の感想を出し合おう！

◆各自配布されている、所属分科会以外の分科会の名前が書かれたポストイット3枚に、各分科会に対しての発表の感想やエールを記入。記入を終えた人から、模造紙に貼付。

⇒内容については、別紙参照。

⑤市長あいさつ

- ・大変たくさんの分科会を重ねていただき、熱心に積み重ねていただいた結果が今日出ていると思う。それぞれベンチマークに直結するような提案や想いをたくさん述べていただき、貴重なご意見が並んだと思う。
- ・それぞれの分科会に職員が入っている。今年の下半期のアクションプランのやり方や、来年の予算組みの新しいアクションプランを作る上でのヒントをいただいたが、職員が入っている以上、今年の下半期にやるようなことは、皆さんからご提案をいただくよりも先んじて、やっていくことができたことがあるかもしれない。
- ・皆さんがいろいろな提案をされる中、「もうやっています」、「検討しています」というぐらいでないと、この市民会議は、その先へなかなか進めないのではないかと。たくさん意見をいただいて、それができていないとすれば、我々がもう少し頑張らなければならない。
- ・ポストイットを1枚だけ書かせていただいた。産業・観光分科会以外には、“子ども”という視点が、提言または発表の中に全て入っている。生涯学習基本構想もそうだが、生涯学習はまちをつくる基本。全て子どもから見たらどうだろうということを考えると良いということが、土台にある。ぜひ、子どもと地域、産業、文化、観光を上手くつなぐようなことを考えてほしい。
- ・この後、推進会議を経て提言があると思うが、市民会議の提案を待って、職員が動いているようであれば、こちらの至らない部分。一生懸命、職員と進めていきたい。



(3) お知らせ

・<第4回市民会議全体会> 10月下旬～11月初旬
※日程・場所が決まり次第、ご案内します

・第4回高浜市総合計画推進会議 ※傍聴可能です

平成24年10月10日(水)午後7時～8時30分

場 所 高浜市役所 第2会議室(4階)

内 容 ・「高浜市総合計画推進会議からの提言」について 等



▲第3回市民会議スタート



▲傍聴席の様子



▲「東日本大震災被災地訪問」報告
(福島伸一郎さん)



▲「ざっくばらんなカフェ」、
「回想法体験会、実践研修会」案内
(井原祥子さん)



▲「高浜市パブリックコメント条例（案）」
意見募集
(鈴木源太郎さん)



▲「タカハマ物語」再上映案内
(神谷環光さん)



▲「コミュニティビジネス」アイデア募集
(高橋貴博さん)



▲「国道419号線高浜立体の析色」アンケート
(田中秀彦さん、知立建設事務所)



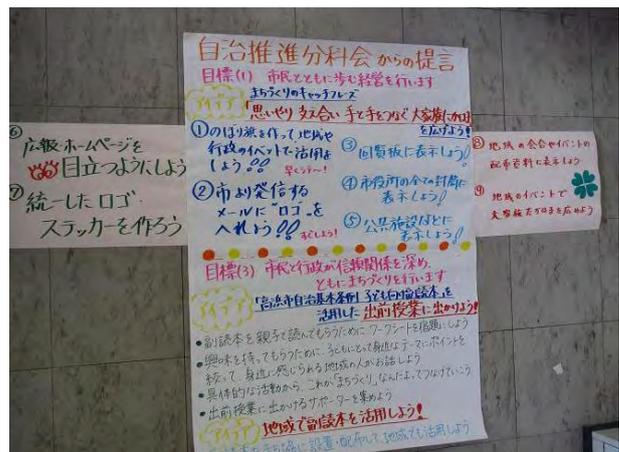
▲くじ引きで発表順決め



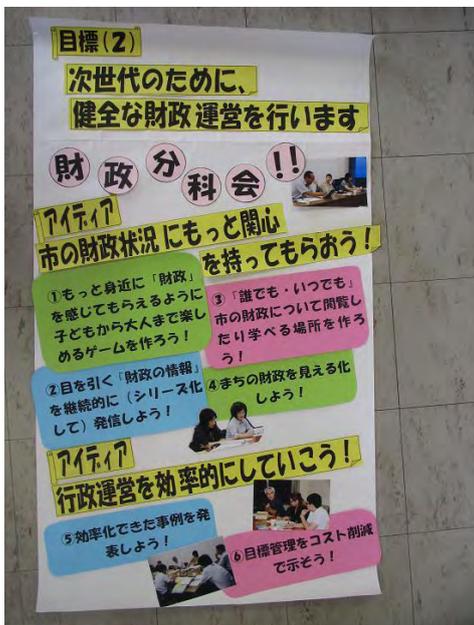
▲発表順決定！



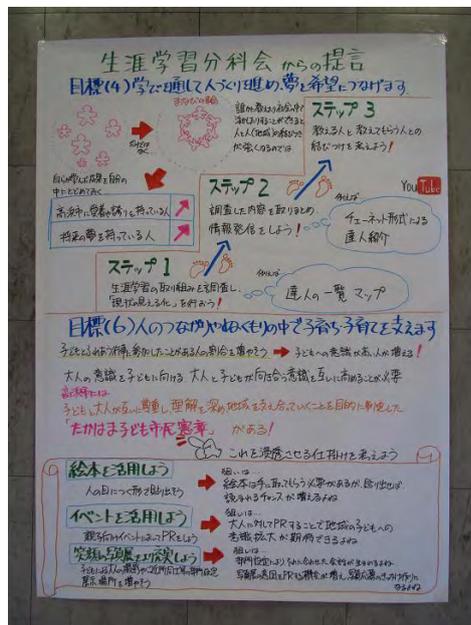
▲発表の感想を出し合おう！



▲自治推進分科会 発表模造紙



▲財政分科会 発表模造紙



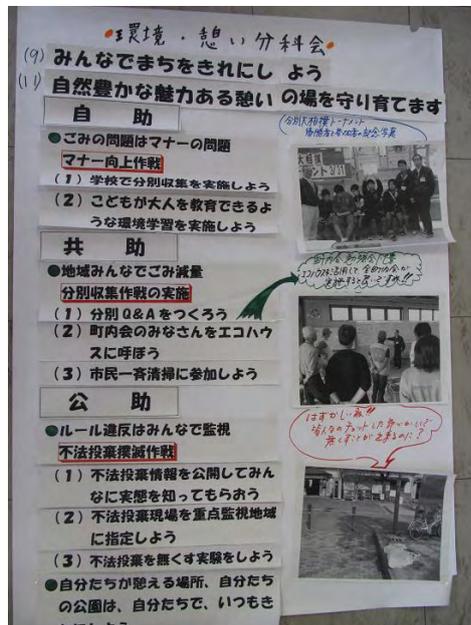
▲生涯学習分科会 発表模造紙



▲学校教育分科会 発表模造紙



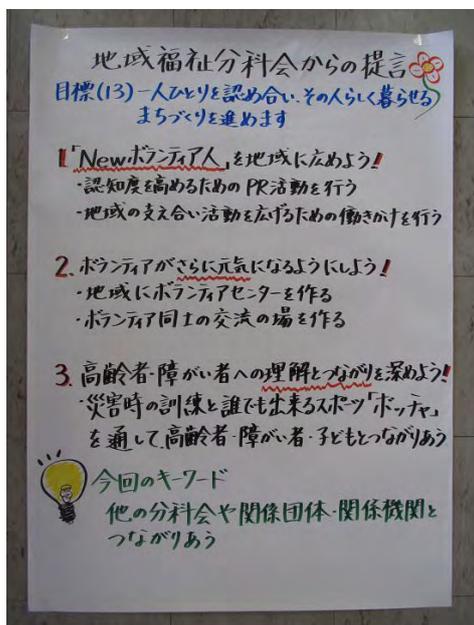
▲産業・観光分科会 発表模造紙



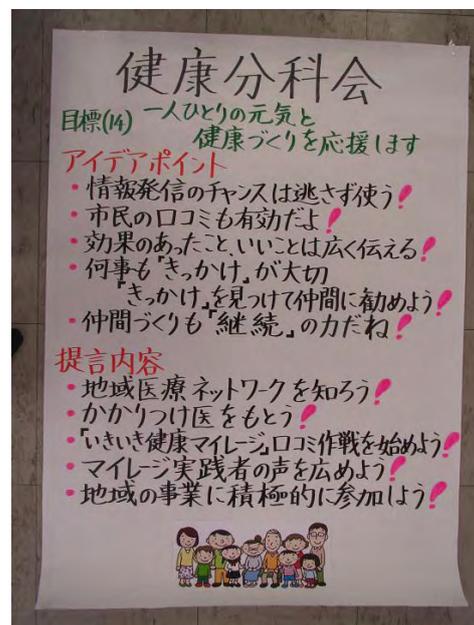
▲環境・憩い分科会 発表模造紙



▲防犯・防災分科会 発表模造紙



▲地域福祉分科会 発表模造紙



▲健康分科会 発表模造紙